

子ども王国

だより

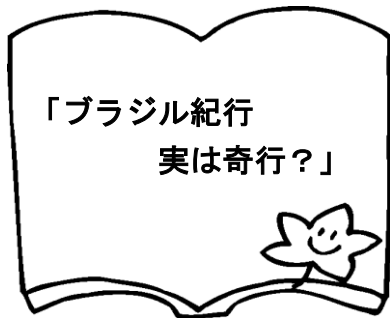
2012年10月発行 Vol.27



- 放課後学習支援事業「ゆめの木教室」
小中学生：月曜日～金曜日 午後2時～6時
- 青少年の自立支援事業「そら」
水曜日：午後6時30分～8時30分

- 青少年の健全育成のための事業
問題を抱えた子どもとその家族に対し
随時相談・援助を行なう
- 交流会 奇数月第4土曜日午後6時～8時





8月のお盆休みをはさんで2週間ほど、ブラジル・サンパウロを旅してきました。

名古屋駅から航空会社の観光バスに揺られ関西空港へ行き、関西空港からドバイまで約10時間、ドバイからサンパウロまで約15時間の長いフライトで地球の裏側まで行ってきました。ドバイでの待ち時間（4時間ぐらい）を入れると片道約30時間の長旅でした。

8月ブラジルは真冬です。でも、日本の真冬とは違い、バラやハイビスカスやブーゲンビリヤなどが咲き、朝晩は薄手の長袖、日中は半袖で快適に過ごすことができました。

サンパウロ空港の近くには、日本企業の新しい工場が立ち並んでいます。そこから60キロほど離れたアチバイヤという街に滞在しました。

この街は花や果実の産地で、中心部は長い歴史を感じさせる石畳の坂道がつながり、街の外れはなだらかな丘とオレンジ色の屋根が点在するととても美しい街でした。

サンパウロに着いた翌日、ひとりで近所の食材店へCOFFEEを買いに行きました。ちょっとした冒険気分です。ブラジル通貨（リアル）のコインをしっかりと握りしめ、もう一方の手でCOFFEEを持ち、レジへ行き握りしめていたコインをジャラジャラと広げて全部見せました。その中から必要なお金を取ってもらうつもりでした。レジの女性は声を出しながら小銭を数えていましたが、なぜか、途中で小銭を数える声が止まりました。彼女の表情からどうやらこの小銭では足りないことを読み取ることができました。どうしようかと思った瞬間、彼女は私にそのCOFFEEを押しつけ、「チャオ！」とさよならの挨拶をしてくれました。翌日、ポルトガル語で足りなかったCOFFEEの料金を払いたいとお店へ行きましたが、お店の女の方は不足分を受け取りませんでした。

これがブラジル？と感じさせてくれる心温まる大切な思い出になりました。 子どもの国代表 井村 美穂





NPO法人 子どもの国

第11回通常総会・交流会



平成24年6月24日日曜日、NPO法人子どもの国第11回通常総会交流会を保見交流館で開催しました。

当日は来賓として地域・行政・企業のみなさまにもご出席いただき、外国籍保護者の方や当法人役員スタッフとの親睦交流を深めることができました。



通常総会風景



今年の「ゆめの木教室」の特色は、例年に比べて中学生の出席率が良いことです。中学に入ると帰宅時間が遅くなり、夕方6時までの「ゆめの木教室」に間に合わないことが多いのですが、部活がない日や早く帰れる日にはちゃんと顔を出して勉強していく中学生がふえてきました。継続して勉強することができると学力がついていくのが実感でき、スタッフの方もついつい力が入ってきます。

それにしても、中学校の勉強は難しいとつくづく思います。国語の漢字はもちろん、社会や理科でも難しい言葉がたくさん出てきます。日本人の生徒でも理解するのが難しいことを外国籍の子どもたちが理解するのは本当に大変なこと。

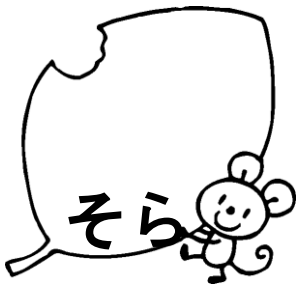


おたんじょうびおめでとう！！



中学校の勉強の難しさを思うと、「小学生のうち学年相当の学力をつけておかないといけない」というのが「ゆめの木教室」スタッフの共通した思いです。それで、小学生に対しても結構厳しく指導しているのが現状です。子どもたちは時々、勉強をやりたくないとか、早く帰りたいとか文句を言ったり、間違いを指摘すると怒ってふてくされたりしていますが、テストでよい点をとってくると、とても嬉しそうに報告してくれます。子どもたちには、その嬉しい気持ちを忘れないで大変な勉強を頑張っていて欲しいなと願っています。





平成 24 年度前期の「そら」は青少年が定期的にあつまり、将来や職業、恋愛相談など様々なテーマについて話し合う機会をもちました。中でも数週間に及んだ「そらカード」の発表では、青少年やスタッフの以外な一面を知ることができました。「そらカード」を使った話し合いは、新しいスタッフが加わったこともあり、自己紹介も兼ねてお互いを知るという目的で実施しました。「自分からみた自分」「他人から見た自分」などすぐには書けない項目もあり、皆悩み考えながら記入をして順番に発表をしました。一人が発表する度に、他の人から質問や感想、自分との比較や体験などの意見が飛び交い、まだまだ時間が足りないと感じるほど充実した話し合いができました。「そら」の青少年は日々の仕事をがんばっていたり、夢に向かって専門学校へ通っていたりとても一生懸命です。今後も「そら」のメンバーの成長が楽しみです。

後期「そら」の予定
 ☆ 体力測定
 12 月にスカイホールでスポーツテストを行います。
 ☆ 結婚パーティ
 青少年 J さんの結婚祝い
 ☆ 募金の使用目的話し合い
 Etc....



いつもにぎやかな「そら」



外国籍の子どもたちを守る災害対策プロジェクト 2012 に参加して。



今回、「子どもたちを守る安全講習会」に参加しました。現在愛知県には約 20 万人を超える外国籍住民が住んでおり、0~19 歳は約 3 万人以上います。私たちの周囲にも多くの外国籍住民が住んでおり、地域住民としての役割を担っています。しかし、3.11 の大規模災害を経て、外国籍住民が行政による防災セーフティネットから落ちやすいことが分かりました。たとえば AED が多言語化されていないため、設置されていても使えないことや、災害時に多言語化された情報が収集しにくいことなどがあげられます。中でもコミュニケーションがとりにくい低年齢層は特に災害被害にあいやすいそうです。その子どもたちに対して、身近な大人ができる小児救命について学びました。心肺停止状態から 10 分を過ぎると死に至る可能性が高くなりそのデットラインが 4 分であることから、救急車が来るまでの間にできる緊急の処置が大事だと学びました。講座ではマネキンを使った心臓マッサージや、人工呼吸方法、倒れた人を発見した時の対処を体験しました。ビデオや教本で分かったつもりでいても実際行う時にはすっかり忘れていたり、慌ててしまったりすることなど自分の苦手部分も分かりました。この講座は災害時だけでなく学校生活や遊びの時間など子ども達に日常的に起こりうる事故に対して特別な技術はなくても対応する方法について学べ、今後役立つ情報を得ることができました。

